とうきょう すくわくプログラム活動報告②

草苑幼稚園

1. 活動のテーマ

＜テーマ＞

ヤゴの羽化

＜テーマの設定理由＞

園庭には人口の池があり、毎年４月に池掃除をすると、色々な生き物がでてくる。その中にいたヤゴを飼いたいということになったが、全部死んでしまった。子どもたちはなぜ死んだのか、と疑問に思い、何とか羽化させて、池に卵を産んでほしいという声が上がったので、このテーマを設定した。

2. 活動スケジュール

４月：池掃除で生き物を取り出す。飼うための相談、役割決め

６月：近隣小学校からヤゴを、いただく。飼い方を相談し、家づくりをする。
　　羽化に向けて、脱皮を繰り返し、餌を食べるところを観察する。
　　脱皮の皮の観察

７月：羽化の様子を見守り、羽化したらトンボを庭に放す。

９月：産卵のための池の環境準備。

3. 探究活動の実践

＜活動の内容＞

・活動のために準備した素材や道具、環境の設定

・活動中の子供の姿・声、子供同士や教諭との関わり　等

・4月にはヤゴを池から取り出しバットで飼おうということになったので用意した。

・6月に近隣の小学校よりヤゴをいただき、ヤゴの家づくりのためにペットボトルを用意し、子どもたちは枝や石などを用意した。「ヤゴは共食いするから、1匹か2匹しか一緒に入れられないって3年生が言ってたよ」「羽化のために枝を入れるんだよ」といって家を作ったが、枝の長さや太さを自分たちで考えるのは難しそうであった。「枝、浮いているよ」という声が上がり、「どうすれば羽化できるの？」と悩んでいる様子があった。ある日、枝を上るヤゴを見たが、翌日には水に落ちて死んでいた。どうしたら水から上がってこられるのかを子どもたちで考え、「グラグラしないように、石で支える」「滑らないように太いのにする」という意見が出て、再度枝を探しに行く。保育者は枝をピンで支える手伝いをした。

・脱皮した皮をみんなで見たが、小さくてよく見えない。「どういう袋なのか？」「ヤゴの形になてるよ」という声があったので、顕微鏡をプロジェクターにつないでみんなで見る。「足のギザギザも皮にあるよ」

・何匹か羽化し、園庭では卵を産もうとするトンボを見たので、園庭の池に、大きい石や長い枝、水草などを入れた。

4. 振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

・子どもたちは最初にヤゴの世話をした時、お世話をすればトンボになると、信じて疑わなかった。しかし、生きた餌しか食べないという話を聞いて、毎日ミミズを探しても見つからない日があることや、赤虫を飼ってきても共食いをしてしまう、お世話をしたのに死んでしまったことなど沢山の思いがけない事を経験したことによって、生き物を飼う時にはよく調べなければならないということに気づいたようだ。トンボが見られなかったことが悔しくて「どうして？」という疑問を友達同士で話す様子が見られたり、生き物飼育図鑑を見るようになったので、本当にもう一度トンボになるようにお世話したいと思い始めているのだと思った。

・近隣の小学校でヤゴをもらいに行ったところ、もらうだけではなく「ヤゴの飼い方」や「気をつけなければならないこと」がたくさんあることを教えてもらったので、もう一度育てたいという思いが強くなったようだ。幼稚園に帰ってから、「飼うために今日しなくてはならないことはなんだろう」と持ち掛け、意見を聞いた。「今日教えてもらったことを全部守る」「ということはどんな事ですか？」「みんな一緒に同じ家にしない」「1匹か2匹が住める家を作ること」「暖かい手でさわると暑すぎて死ぬ」「引っ越しの時だけしか触らない」「今すぐ家を作らないと、共食いになる」などの意見がでたので、小学生の話をよく聞いて覚えていたことが理解できた。早速グループで相談して家づくりをするようにお願いしたが、ヤゴのためにどうすればよいか、自分の考えを伝え合いながら取り掛かっていたので、主体的にこの活動取り組めていると感じた。枝の太さや長さについて疑問が出たが、もう少し羽化が近づいてから考えてみたいと思い。あえて深めなかったが、後に枝を登り始めたヤゴが水に落ちて死んでしまった経験をして、やはり枝についてよく考えなければならないことに、子どもたちが気づいた。保育者が先に教えてしまうのは、子どもの気づくチャンスを奪ってしまうので、今回の判断はよかったと思った。

・園庭でトンボを見かけると、「あの時のギンヤンマだよ」「名前をつけよう！」という言葉を聞いて、失敗の体験から成功の体験に繋がって、生き物への愛情がより深くなったと感じた。水たまりに産卵しているトンボを見て、「池で産んでもヤゴになる？」という疑問を持ったので、みんなで話し合ったところ、「乾いたら卵も乾くから、池で卵を産んでほしいな」と意見がまとまったので、何をすることがよいか話し合い、太い枝や石などを置いた。
・普段生き物に興味を持たない子もいるが、今回は、一度死なせてしまったこと、小学生から教えてもらったこと、自分たちのグループでお世話をしたことによって、どの子も興味を持った。実際の体験や、子どもたち同士の伝え合いが、より興味と監視委を深めるのだと実感した。「字が読めないから図鑑を見てもわからない」という子に「絵だけでもわかることあるよ」と言って、調べ方を教えてあげる姿を見て、友だちと一緒に活動したいという思いが感じられ、グループや友達とのつながりも育っていると気づかされた。